

南薩教育事務所だより

令和6年6月発行

教員の魅力

南薩教育事務所長 摺木 直人

今年の2月に行われた県下一周駅伝で、一人の選手の応援に日置市まで出かけた。その選手は、私が初めて中学校の駅伝チームを監督したときの中心選手だった。彼は陸上部ではなかったが長距離走が得意と聞き、朝練に誘い込んだ。早朝の練習は人気がなく、少ない人数での練習であったが、彼は一度も休むことはなかった。残念ながら県大会出場という目標は叶わなかったが、ともに汗を流した思い出深い生徒の一人である。

彼の長距離走に対する溢れんばかりの情熱を感じていた私は、一般でも参加できる県の陸上競技大会に出場させたことがあった。大会当日、彼はそれまで私が経験したことのないレースを見せてくれた。競技は3000m走。不運にも彼はスタート直後に転倒し最下位となり、先頭との差が大きく開いた。それでも彼は起き上がると靴を履き直し、短距離走のごとく走り出した。そして、あっという間に全員を抜き去り先頭に躍り出た。何度後続から抜かれてもその度に抜き返し、先頭を必死に守った。しかし、最後は力尽きたのか、抜き返すことができなかった。結果は平凡な記録にとどまったが、他のどの選手よりも記憶に残るレースを彼はを見せてくれた。

躓いたときや諦めそうになったとき、冒頭に紹介した生徒のレースを思い出す。ちなみに、彼は、無茶苦茶なレースを見ていた強豪校の監督の誘いを受け、全国高校駅伝や大学駅伝で活躍する選手にまで成長した。そして、今年度、20回目の県下一周駅伝出場を目指して今も努力を続けている。私にとって彼は思い出深い生徒であると同時に尊敬する人物の一人でもある。

パーソナル総合研究所の「教員の職業生活に関する定量調査」によると、「教員という仕事のやりがい」について、最も回答の割合が高かったのが、小、中、高ともに「子供たちの人間力が上がった時」であった。子供たちの成長を促すのが教師の役割であるが、その一方で、教師自身も子供たちとのふれあいの中で気付き、時にはその後の考え方に影響を受けることもある。それが、私にとって教員としての魅力であり、年齢や立場にかかわらず、純粋な気持ちになって、ともに高め合うことができるところに教員としてのやりがいを感じる。

当たり前のことを確実に

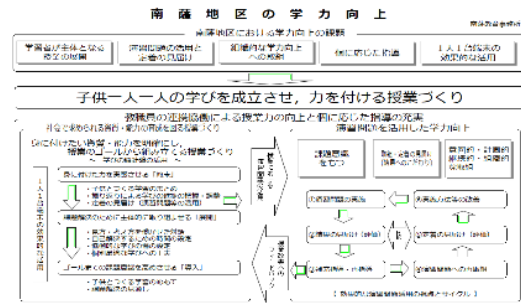
県内における学校職員の交通事故・交通違反の発生が後を絶ちません。1件も発生させないため、運転前に改めて振り返ってみましょう。

- ・ 速度超過は「人命を奪う恐れがあり、重大な事故につながる」と分かっているながら行う悪質な行為であることの認識をもつ。
- ・ 場所によって異なる「最高速度」を認識する。
- ・ 運転中(信号等での停車中も含む)手の届くところにスマートフォン等を置かない。
- ・ 適切な車間距離を保つ。
- ・ 危険な状況を予測して運転する「かもしれない運転」に心掛ける。
- ・ 運転経験について自覚するとともに、運転に係る判断・技能について過信せず、安全運転に努める。

授業づくりをおとした学力向上の推進

南薩地区の学力向上のテーマは、「子供一人一人の学びを成立させ、力を付ける授業づくり」とし、「確かな学力の定着と見届け」、「教員の授業力及び資質の向上」、「教育におけるICTの効果的な活用」を重点として、取り組んでまいります。

そのために、教員の授業力向上のための、「学習者主体の授業」実現プロジェクトや「学習者主体の授業づくりフォーラム」、「よりよい授業づくりに向けた研修担当者研修会」などの各種取組の充実を図っていきます。これらの取組で、学びに向かう力を高める「振り返り」についても研究し、学校へ還元できるようにしていきます。また、確かな学力の定着のために、演習問題の効果的な活用と見届けの徹底をお願いします。



【地区学力向上グランドデザイン（事務所ホームページ掲載）】

特別支援教育の充実

特別支援教育では、「インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の推進」、「教育的ニーズを踏まえた学びの充実」、「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築」を重点として、取り組んでまいります。

「地区特別支援教育連絡会」を開催し、南薩地区の課題解決に向けて各市教育委員会との連携を図ります。その他開催される各種研修会での内容を基に、「ユニバーサルデザインの視点による授業づくり」、「障害者差別解消法に基づいた合理的配慮の提供」、「適切な学びの場の検討と支援体制の構築」、「自立活動の充実」、「移行支援シートの活用」を推進し、継続したきめ細やかな支援の提供を目指します。

法令等に基づいた組織的対応の徹底

南薩地区においては、いじめの認知に関する積極的な取組等に課題があることから、生徒指導提要を活用した法令等に基づく生徒指導体制の推進を図っています。また、魅力ある学校づくりに向けた取組において、強肯定評価に着目した意識調査や教育相談等を実施し、職員研修や生徒指導連絡会等での状況把握と分析を推進することで児童生徒が主体となった学習指導と生徒指導の一体化した授業づくりを目指します。

〈いじめ防止対策推進法〉

（いじめの防止等に関する措置 22条）、（いじめに対する措置 23条）

〈 Point 〉

- ※ SCやSSW等を構成メンバーとして位置付ける。
- ※ 組織的対応が必要となる
(学級担任等が一人に対応しようとすることは、法的に許されない)。

体力向上に向けて

右記は、令和5年度の体力・運動能力調査の結果です。

南薩地区は、小5男女、中2男女ともに県平均を上回っています。特に中2女子は全国平均を上回る好結果でした。各学校において、先生方が体力

男女別の結果 (Tスコア: ◎52以上, ○50以上52未満, △48以上50未満, ▲48未満)

			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ
小学5年	男子	県	△	△	△	△	○	△	△	○
		地区	△	△	△	△	○	○	○	◎
	女子	県	△	△	△	△	○	○	△	○
		地区	△	○	△	○	○	○	◎	◎
中学2年	男子	県	△	△	△	△	△	△	△	△
		地区	△	△	△	△	○	△	○	△
	女子	県	△	△	▲	△	○	△	○	△
		地区	△	○	△	○	◎	○	◎	○

向上に励んでいただいた結果と考えております。また、「体力アップ! チャレンジかごしま」への積極的な取組も好結果の要因と考えられます。

しかし、握力、長座体前屈において、県、地区ともに全国平均を下回っています。特に、長座体前屈においては全国との差が大きい結果となっています。

令和6年度の重点取組を「のびしてコロコロ」のみに絞りましたので、体育・保健体育の授業の導入等に取り組み、柔軟性の向上に活用してください。

社会教育の推進

○ 「地域学校協働活動」の推進による体験活動の充実

令和2年度より、「かごしま学校応援団」から「かごしま地域学校協働活動」に名称を変え、各地域で特色を生かした積極的な取組が進められています。今後も地域と学校が連携し充実した取組を進めるとともに、さらに、地域・学校・家庭が連携した体験活動につながる取組になることを期待しています。

○ 家庭教育支援啓発資料「親子手帳」の活用

今年度も新小学1年生と小・中・義務教育学校の全学級担任の先生方に配布しました。各家庭における親子での話題づくりや、学級PTA、家庭教育学級等での家庭教育支援の資料としてなど、積極的な活用につなげてください。



「転入職員・新任職員の紹介」



総務課長 上戸雄次

鹿児島県教育庁教職員課
主幹 (兼) 給与係長 より

南薩地区は初めての勤務になります。本地区のために貢献できるよう、微力ですが努力して参りますので、よろしくお願いたします。



指導主事 岩崎喜好

肝付町教育委員会教育総務課長補
佐 (兼) 教育指導係長 より

主に学力向上、特別支援教育を担当します。南薩地区の学校教育の充実に向けて、微力ながら頑張ります。よろしくお願いたします。